



1 「いのちの教育」の目標

- (1)「未来を担う人づくり」を進めるために、教育活動全体で、防災教育を核とし、自他の命を大切にしていける資質・能力を向上させるとともに、地域に対する理解と愛情を育てる。
- (2)防災についての対処能力を向上させ、万一の場合に活用できるようにする。
- (3)「共生」の視点から、他者の命を尊重する資質を養い、いじめのない学校を目指す。

2 指導の重点

- (1)釜石は地震・津波などの自然災害の常襲地帯で、これまでも何度も被害に遭い、その都度力強く復興してきた歴史を理解させる。
- (2)地震・津波などの自然災害は生命・財産に甚大な被害を及ぼすことを理解させる。
- (3)地震・津波などの自然災害への対処方法を指導することにより、被害を最小化できるようにする。
(減災教育の視点)

- (4)「いわての復興教育」及び「釜石市津波防災教育のための手引き」を活用し、震災津波の体験から学んだことを生かしながら学習活動を展開する。
- (5)PTA等、地域と連携しながら安全教育を推進する。
- (6)心とからだのアンケート等の調査を活用し、すべての生徒が安心して生活できる学校をつくる。

3 実践例 (1)安全教育

4月に全校生徒を対象とした交通安全教室を行っている。その中で、学区内の復興状況や通学路の危険箇所を確認すると共に、登下校時の緊急時の避難場所等を指導している。また、4月～11月まで、保護者の協力を得て、毎朝通学路の危険箇所交通安全指導を実施している。



(2)合同避難訓練

本校では7月に、学校近隣の保育園や仮設住宅の方々にも呼びかけ、合同避難訓練を実施している。昨年度に続き、「中妻子どもの家」と昭和園仮設住宅にも呼びかけて実施した。担当となった学級の生徒はそれぞれの場所に赴き、幼児や高齢者と手を繋ぐなどして、高台(大天場山)へ避難した。仮設住宅には代表の方を通して参加を呼び掛けていただいた。全体では約600名近くでの避難訓練となった。



(3)文化祭壁新聞への掲載

文化祭では、各学級で壁新聞を制作するが、その記事の中には防災や復興に関する記事を盛り込むこととしている。各学級では取材や調査活動を行うなどして、市内の復興の状況や市民の意識、防災や未来の街作りへの提言などを盛り込んでいく。この活動を通して、震災体験を風化させないだけでなく、自分たちがこれからの釜石を作っていく存在であるということを実感している。



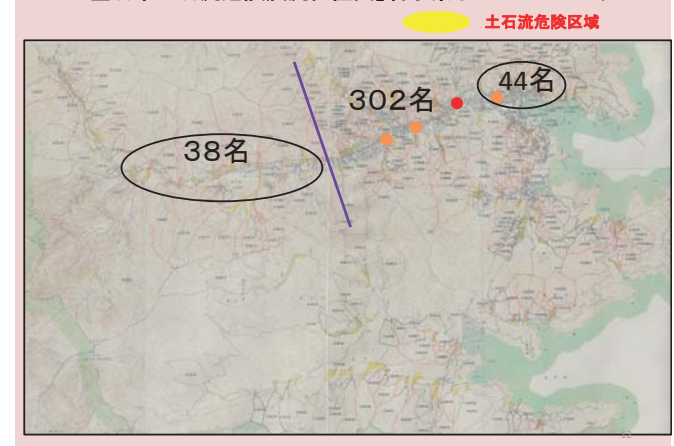
釜石中学校「いのちの教育」

- 防災教育を核としながら
- 安全教育、教育相談、保健指導
- 総合的な学習の時間
- 特別活動(行事、学級活動、部活動、生徒会活動)
- 進路指導
- 道徳
- 各教科との連携

教育活動の全領域で「生きぬく力」を育成

参考資料 「いのちの教育」関連の取り組み(関連づけが可能な取り組みを含む)

学年	実施時期	実施内容	実施場所	実施者	実施回数	実施状況	実施効果
4	4月	交通安全教室	校内	警察官	1回	交通安全意識を高め、安全な通学路を確保する。	交通安全意識の向上、安全な通学路の確保。
5	4月	交通安全教室	校内	警察官	1回	交通安全意識を高め、安全な通学路を確保する。	交通安全意識の向上、安全な通学路の確保。
6	4月	交通安全教室	校内	警察官	1回	交通安全意識を高め、安全な通学路を確保する。	交通安全意識の向上、安全な通学路の確保。
7	7月	合同避難訓練	市内	学校教員	1回	避難訓練を実施し、防災意識を高める。	防災意識の向上、避難訓練の実施。
8	7月	合同避難訓練	市内	学校教員	1回	避難訓練を実施し、防災意識を高める。	防災意識の向上、避難訓練の実施。
9	7月	合同避難訓練	市内	学校教員	1回	避難訓練を実施し、防災意識を高める。	防災意識の向上、避難訓練の実施。
10	7月	合同避難訓練	市内	学校教員	1回	避難訓練を実施し、防災意識を高める。	防災意識の向上、避難訓練の実施。
11	7月	合同避難訓練	市内	学校教員	1回	避難訓練を実施し、防災意識を高める。	防災意識の向上、避難訓練の実施。
12	7月	合同避難訓練	市内	学校教員	1回	避難訓練を実施し、防災意識を高める。	防災意識の向上、避難訓練の実施。
1	7月	合同避難訓練	市内	学校教員	1回	避難訓練を実施し、防災意識を高める。	防災意識の向上、避難訓練の実施。
2	7月	合同避難訓練	市内	学校教員	1回	避難訓練を実施し、防災意識を高める。	防災意識の向上、避難訓練の実施。
3	7月	合同避難訓練	市内	学校教員	1回	避難訓練を実施し、防災意識を高める。	防災意識の向上、避難訓練の実施。



釜石中学校「いのちの教育」

- 防災教育を核としながら
 - 安全教育、教育相談、保健指導
 - 総合的な学習の時間
 - 特別活動(行事、学級活動、部活動、生徒会活動)
 - 進路指導
 - 道徳
 - 各教科との連携
- 今年度は
- 「いわての復興教育」副読本を活用し、より充実した指導を目指す。

教育活動の全領域で「生きぬく力」を育成

過去に起こった災害

平成14年7月10日～11日
台風6号豪雨により土石流が発生。
11日の午前6時～9時の3時間雨量は136mmを記録。
人的被害・・・死者2名
住家被害・・・全半壊9棟、床上浸水166棟、床下浸水453棟。



土石流が発生した松原地区

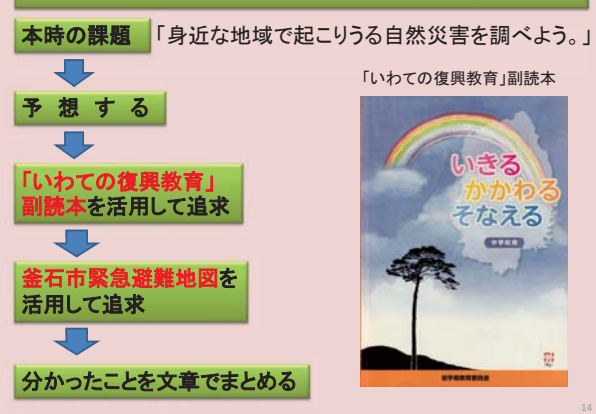


釜石駅前の道路が冠水

(4)「いわての復興教育」副読本 『いきる かわる そなえる』を活用した授業

- ① 目標
 - ア 身近な地域で起こりうる自然災害への理解を深めさせる。
 - イ 自然災害への備えや災害時の行動を考え、自分や家族、地区の人々の命を守ることでできる人材を育てる。
- ② 指導計画
 - 第1時(11/10) 身近な地域で起こりうる自然災害 副読本P52～57「自然災害のしくみと被害」
 - 第2時(12/16) 災害に備える 副読本P60～61「そのとき、どうする？」

③ 本時の展開(第1時・11/10)





道路に水があふれて浸水しやすい。

平成23年
鉄砲水で床下浸水

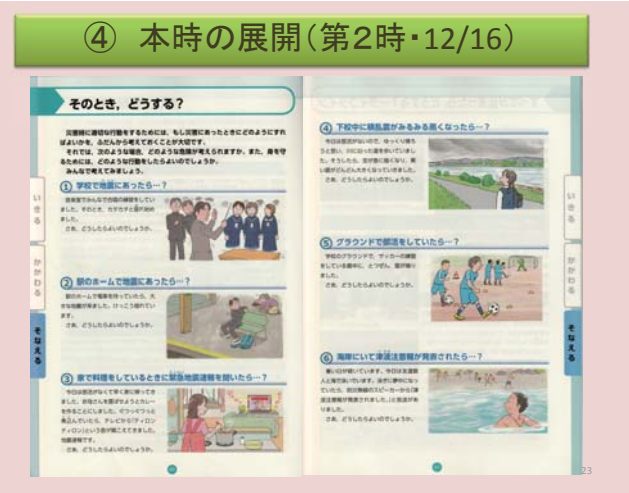
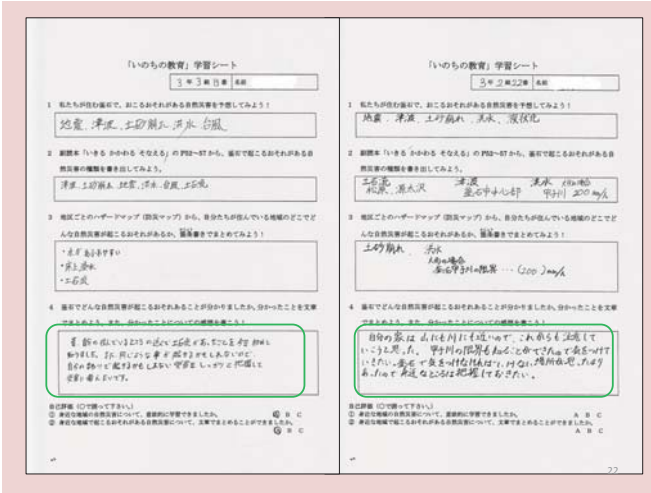
平成14年頃
土砂崩れで土砂が
家屋に流入

大雨が降ると、大き
な石が流れる。

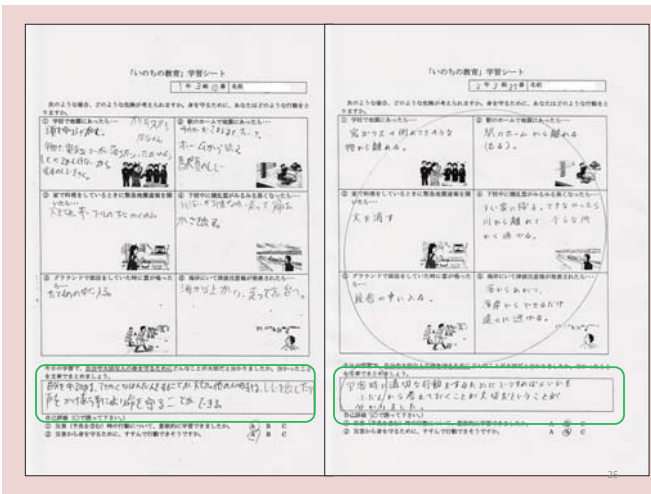


実際の生徒の様子

緊急避難地図を使う場面では、
地区ごとにグループ作業。



実際の生徒の様子



4 今年度の成果と課題

(1) 成果

ア 昨年度の課題に、地震や津波を想定した防災教育だけでなく、河川の氾濫や土砂災害など、多岐にわたる自然災害に対応した防災教育の必要性が残っていた。今年度は「いわての復興教育」副読本と地域の緊急避難地図を活用し、身近な地域の自然災害への理解を深めることができた。

イ 安全教育、合同避難訓練、文化祭壁新聞での取り組みとの相乗効果で、自他の命を守るとともに、復興に向けて自ら関わろうとする態度が高まっている。

(2) 課題

ア 道徳、特別活動など全領域で、3年間を見通して系統的にいっこの教育を実践していくこと。

イ 上記を実践するための教材をさらに開発すること。